東京外国語大学国際日本研究センター社会連携講座

パレスチナを〈考える〉【全２回】
ー過去・現在・未来ー

第１回 ２０２３年１１月２４日（金）１８時開始
於・東京外国語大学府中キャンパス　留学生日本語教育センター　さくらホール

第２回 ２０２４年１月２６日（金）１８時開始
於・日本キリスト教会館　４階　会議室

講師：鵜飼 哲

2023年10月7日のハマースによるイスラエル攻撃とそれに対する報復攻撃以降、パレスチナのガザ地区の戦況は悪化の一途を辿っています。アハリーアラブ病院では爆撃によって500人以上の死者が出たと報じられました。さらにイスラエル軍が地上での市街戦を本格化させ、民間人の犠牲はまったくとどまりません。本講座の共催団体である「アハリーアラブ病院を支援する会」は、1992年の第一次インティファーダ以来31年間、イスラエルのガザ占領・弾圧に抵抗する若者たち、働き手が投獄され貧困に陥った家族の無料診療を続けてきたアハリーアラブ病院の支援活動を続けてきました。本学名誉教授の藤田進さんも共同代表のひとりです。

全２回の連続講座では、フランス現代思想、特にジャック・デリダの研究者であると同時に、長きにわたってパレスチナの文化と政治に深く関わってきた鵜飼哲さん（一橋大学名誉教授）を講師に迎えます。現在のパレスチナにおける危機的な状況と今後起こりうる事態を考え、さらに現代世界における戦争のありようについても議論を交わしていきたいと思います。講演会では、アハリーアラブ病院を支援する会からも現状を報告していただきます。

一橋大学名誉教授。専門はフランス文学・思想。著書に『抵抗への招待』（みすず書房、1997年）、『応答する力――来るべき言葉たちへ』（青土社、2003年）、『主権のかなたで』（岩波書店、2008年）、『ジャッキー・デリダの墓』（みすず書房、2014年）、『テロルはどこから到来したか――その政治的主体と思想』（インパクト出版会、2020年）、『まつろわぬ者たちの祭り――日本型祝賀資本主義批判』（インパクト出版会、2020年）など。訳書にジャン・ジュネ『恋する虜』（共訳、人文書院、1993年）、『アルベルト・ジャコメッティのアトリエ』（現代企画室、1999年）、ジャック・デリダ『盲者の記憶――自画像およびその他の廃墟』（みすず書房、1998年）、『友愛のポリティックス』（共訳、みすず書房、2003年）、『ならず者たち』（共訳、みすず書房、2009年）、『動物を追う、ゆえに私は（動物で）ある』（筑摩書房、2014年）など。

主催：東京外国語大学国際日本研究センター
〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1　東京外国語大学 府中キャンパス アゴラグローバル2F
電話・FAX：042-330-5794　メール：info-icjs@tufs.ac.jp
共催：アハリーアラブ病院を支援する会